シングルユースクリップ装置の有用性

社会医療法人　製鉄記念八幡病院　臨床工学部
○内藤　　翼、佐野　拓哉、田村　実穂
甲斐　崇廉、香月　一志、山内　大樹

【背景】
　クリップ装置は止血術や病変切除後の閉創、術前マーキング等に広く用いられる処置具である。当院内視鏡センターではオリンパス社製リユーザブルクリップ（以下、リユース）を使用している。しかし以前より繰り返しの再生により装置の不具合が多々あったため同社のシングルユースクリップ装置（以下、シングルユース）を導入した。今回、それぞれの使用経験を元にシングルユースの有用性を検討したので報告する。
【方法】
　リユース、シングルユースの各特徴をまとめ操作性、感染面、コスト面から比較検討を行う。
【シングルユース特徴】
　シングルユースはリユースと同等の構造を有しており、各サイズのクリップがそのまま流用できることが大きな特徴でスムーズな取り回しが可能となる。また再生処理が不要であるため時間の節約や感染対策に大きく関与できる。ただしコスト面では1本約6000円となるため使いどころは考えるべきである。
【リユースの特徴】
　リユースは滅菌対応のため繰り返し安価に使用できることが大きいが、劣化によりスライダーが硬くなることや先端部の曲がりによるクリップの装填失敗、回転不良が発生することがあり、熟練の介助者でも操作に難渋することがある。再生処理が正しく実施しなければ滅菌効果に影響し処置具を介した感染に危険があるためスタッフ労力負担になっている。また当院では滅菌を外注依頼しており、ある程度の本数をストックしておく必要がある。
【結果】
　シングルユースは装填、回転、クリッピングと操作がリユースと同じためスタッフはスムーズに操作が可能であった。また洗浄から滅菌返却までの期間がカットでき在庫の不安やリユースを中央材料室で急な滅菌をお願いする事も無くなった。特に夜間休日緊急症例では1人で片付けを行うのでスタッフの労力低下に大きく貢献した。
【考察】
　シングルユース導入はその操作性の良さから介助者を問わず確実な操作が可能であり、感染面の不安も解消された。また挿入部の折れを気にする必要がなくスコープ内部への損傷が少なくなったことは修理削減にも貢献できるのではないかと考える。しかしシングルユースの統一はコスト面から厳しく、現状では多発ポリープや緊急症例時、前処置不良等の汚染がハイリスクな症例に主に使用を限定している。
【結語】
　シングルユースの導入は操作性、感染面に有用であった。しかしコスト面の問題から使いどころを考慮しリユースとの上手な共存を目指していきたい。